（別紙4）　　平成　26　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4373000423		
法人名	医療法人　新清会		
事業所名	グループホーム　むつみ荘		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字佐敷371-6		
自己評価作成日	平成26年12月14日	評価結果市町村受理日	平成27年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非絵入り活動法人あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	平成27年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

むつみ荘は、芦北インターより車で約2分の場所にあります。母体である篠原医院の横に位置し、医院と連携を図りながら利用者様と共に暮らしていく中で安心感の持てる生活の場となっています。天気の良い日には散歩に出かけます。また、地域の行事など積極的に出向き参加する事でたくさんの方々と顔見知りになり優しくふれあって頂きグループホームをご理解の上色々とご協力頂いています。利用者様には、出来る事は何でもやって頂いています。芦北は、海の幸・山の幸が豊富な所です。新鮮な食材を使用し、利用者様には大変喜んで頂ける美味しい食事を提供しております。地域に根ざし、地域の協力を頂き、住みよい暮らしが出来るよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

職員の一日のスタートは入居者を1階居室より2階リビングに階段や昇降機を使って誘導することから始まっている。全員が揃うと互いの顔を見て安心し、一息ついた頃には絶妙なタイミングで昔懐かしい朝のおやつが出され、各自が好みのものを選択しながら嬉しそうに口にされるなど、何気ない生活がとても温かく定着している。ベッドでの生活が多くなっても毎日の入浴支援がホームにとっては当たり前のことのようだが、高齢化や重度化の中にあって感心せずにはいられない。地元の海や山の幸は毎日の食卓を彩り、手際のいい包丁の音がリビングに響き入居者も食に関わり個々の自信になっている。本年は地域との関係が行事食のおすそ分けなどで更に近まり、地域ぐるみでホームを支えていることに心を打たれた。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性を重視した理念を大切にしている。又、むつみ荘独自の理念を掲げ地域との関係を大切にしている。	既存の建物を利用し、1階を居室部分、2階をリビング食堂として生活するホームでは、起床後は全員で2階に上がり互いの顔を確認しながら寄り添い、励まし共に泣き笑う日々を過ごしている。ホームの目指す安心して長く生活できる家でありたいという願いを、地域住民の支えが大いに後押ししており、理念の追求に向けた努力が展開されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり近隣に住む人たちと触れ合うようにしている他、防災訓練など参加して頂き協力を頂いている。地区の花植え、どんどや、廃品回収なども参加し交流の一貫としている。	地域行事である年2回の花植えや廃品回収は継続され、率先して参加している。川原で行われたどんどやでは、入居者が振舞われた料理にも喜ばれたようである。日ごろの地域交流が防火訓練時の参加協力にも表れ、入居者の誘導や見守り支援に活かされており、日ごろの好意に感謝の意味を込め、職員手作りの行事食を近隣に届けるなど、昔ながらの近所付き合いもできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加する中で、利用者様への接し方、対応を見ていただき認知症に対する理解を深めるようにしている。また、人材育成の貢献として研修の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様方の普段の様子をご覧頂きながらの会議状況となっており質問、意見なども頂いている。	地域の代表者が参加する会議には、行政担当者による福祉制度の変更や町の動向について話が行われている。また、消防署からは緊急搬送についての説明や急を要する時は我慢をしないで呼んで欲しいなどの言葉もあがっている。会議は入居者の表情や動きなど普段どうりの様子を間近に見てもらいながら進行し、職員が2ヵ月ごとのホームの現状を報告して参加者の意見を更に引き出している。	今後は地域の小・中学校や福祉コースのある地元高校の関係者などにも参加を依頼し、高齢者福祉に取り組むホームを知ってもらう機会にすることも重要であると思われる。検討されることに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き事業所の実情やケアサービスを伝えているが連絡は蜜にとってはいない。参加される方により、熱心に色々質問もありその都度取り組みを伝えている。	行政からの運営推進会議参加により、様々な情報がもたらされ、運営に反映させると共に、ホームの現状を発信し、理解と協力を得ている。本年度は行政の発案により町内全ての同業者が一同に介して意見交換の機会が設定されるなど、新たな取り組みも行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。施錠は防犯の為に行っている。	職員は身体拘束による弊害を正しく認識し、勉強会の中で更に共有する機会を持っている。長年の入居者と職員の関わりは自然体で偽りがなく、互いに思いをはせる気持ちが入居者の間にも浸透し、隣同士に座りながら、ソファからの身体のずれを懸命に直そうとする姿にも表れているようである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加し、ミーティング等で虐待防止に関する理解浸透や順守に向けて取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要性はないが、研修等に進んで参加し、支援する体制をとっていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	約款書を説明し利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実際などについて詳しく説明している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているが、未だに殆ど活用されていない。利用料金支払い時、要望、意見をたずねているが特に意見、要望は聞かれない。	入居者が日中を過ごすリビングは畳敷きにソファが置かれ、それぞれの定位置で寛ぐ入居者に職員が一人ひとり声をかけながら意見を引き出している。中には表現困難な方もおられるが、表情や身体の動きで確かめながら支援に反映させている。家族は面会時に気軽に職員と話を交わす中で、これからもこのホームで元気に過ごして欲しいと感謝の気持ちを伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者と共に毎月会議を行い意見や提案について配慮いただいている。	職員は普段から気づいた点をその都度提案している。月の会議には法人代表者も参加し、職員意見の把握に努めると共に、入居者と会話をしながら状態把握を行っている。1階居室の襖を取り替えたいとの意見に早速張替えが実現し、明るくなった居室に入居者が喜ばれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得支援は十分に行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の勉強会、研修等に参加している。資料等は職員全員閲覧できる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームブロック会にて勉強会、研修に参加し事例検討を通して同業者の意見や取り組みをケアに活かしている。交換研修も行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちに共感しながら対応している。理解困難な方は察知しながら対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯状況についてゆっくり話を聞き、共感を持って受止め共に支援していくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	短期利用も可能である為、まず短期を利用して頂き徐々に利用の支援提供など勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たずお互い協働しながら和やかな生活ができるように働きかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族の思いを共感し共に支えあい支援できる様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援につとめている。	故郷訪問を行っていたが、重度化に伴い外出の機会がなかなか取れない。出来る方はぜひ故郷訪問したい。面会などもお願いしている。	家族による利用料の持参は面会の機会を増やし、入居者のホームでの暮らしぶりに安心される方が多いようである。中には月に1度自宅で一緒に食事を摂った後、帰ってこられるなど協力も得られている。重度化と共に、揃っての外出は難しいが地元神社への初詣や馴染みの祭りに出かけたり、母体への受診の往復も通いなれた道のりとなっている。	ソファに座っていた入居者が来訪者に「今日はどこに泊まるですか？すぐ近くに良か宿があるですよ！」と、発せられた一言は、地元愛を強く感じられるものであった。今後も入居者にとって住み慣れた芦北の地で変わらぬ温かい支援が継続されることに期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は皆さん居間で過ごされ孤立することはない。出来る事をやって頂く時は、皆さんに声かけを行い、皆さんでやって頂くようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	全く断ち切る事はないが、相談があった場合には相談にのる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に声かけ、話かけなど行い対応している。意思疎通困難な方は日々の行動や表情からくみ取り関わる中で把握している。	職員は申し送りノートや1日2回の口頭での伝達事項をチェックし、その日の入居者の状況を把握した上で寄り添い、生活への希望を聞き取っている。入居者から発せられた言葉は全職員で共有し、支援の中に反映させている。意思表示が困難な方へも日ごろの様子から推察し、家族に尋ねながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者などから色んな情報を得て把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムの理解をすると共に行動や小さな動作から把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望や思いを聞き職員全員で毎月ケアカンファレンスを行い無理のない介護計画を作成している。	本人の意向を最優先に家族の声や職員の気づきをプランにあげている。入居者と職員は日ごろから深い関わりをしており、表現困難になられても本人の思いに近づく努力をしている。入居間もないプランに安定した生活を盛り込み、家族からの意見収集やこれまでの生活暦から見えてきた事柄を支援に活かすと共に、話し相手として入居者の力を借りながら立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は、個々の記録に記載し、申し送りノートにも記載情報共有を徹底し計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて情報交換し地区の行事や町の行事に参加している。（花植え、七夕祭り、文化祭、どんどやなど）		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医、受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。基本的には家族同行の受診となっている。不可能な時は職員が代行している。	入居時に協力医療機関の存在を伝え、現在は緊急時や定期受診への対応の面から全員が母体医院を希望され職員が同行している。眼など他科については家族による受診を基本としているが、ホームでも柔軟に対応している。遠方の専門科受診の場合も、高速の利用により事務長や管理者が同行し、家族と待ち合わせる事例も確認された。ホームはバイタル確認、食事中使用しない居間の空気の入れ替え、うがい手洗いの励行など、日々の健康管理や異常の早期発見に協力医と連携して取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。変化に気づいたことがあれば、直ちに訪看、看護職に報告し、適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に情報を提供し、職員が頻繁に見舞い家族とも回復状況等情報交換しながら、早期退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明をおこなっている。看取りについては希望に応じて対応する。	入居時に看取りに関する方針や医療連携加算についての説明を行い、最終の要望などについて確認している。また、家族の気持ちは状況によって変わることから、そのような状態になった時点で、再度医師を含め話し合って行くことを伝え、安心されるよう申し添えている。今年度も医師や看護師と連携し、本人や家族の思いに添いながらギリギリまで3名の方の支援が行われている。管理者は今後もホームに出来うる支援に職員も志を一つにして取り組んでいきたいと思いを語っている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会には全ての職員が参加し体験、習得するようにしている。夜勤時は緊急対応マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、地域の方々の協力を経て避難訓練を行い、消火器の使い方などの訓練も行っている。夜間想定非難訓練実施済み。	毎年5・10月を基本に消防署立会による災害訓練を実施している。訓練には地域家庭に10数枚の文書を2～3日前に法人事務長が配布し協力を依頼している。夜間想定で自宅から駆けつける職員へは、首にかけられる懐中電灯を持参するなど細やかな指導もなされている。法人内には災害対策委員会が設けられており、自然災害にも取り組み点滴などの医療備蓄も準備されており、台風接近時にはホームでも食の備蓄に取り組んでいる。また、戸締りやガス、消毒など日頃の安全点検や衛生点検も徹底されている。	ホームは近隣との協力体制や消防署長の運営推進会議への参加、防火管理責任者の4名の在籍（今後も増やして行きたい意向）など、安全管理への取り組みが広報誌や聞き取りからも確認された。今後も引き続き災害対策に尽力されることに期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を傷つけないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。	一人ひとりを尊重し家庭的な雰囲気な中で誇りやプライバシーに配慮した支援に努めている。個人情報の使用にあたっては、重要事項説明書の中で家族に説明を行っており、職員の守秘義務の徹底についても事務長による指導や日頃の業務の中で共有を図っている。プライバシーに配慮した排泄支援や食事支援、入居者にとって（日本人にとって）畳という空間の捉え方を疎かにせず、居間では必ず履物を脱ぎ支援にあたること、入居者の前を通る時の自然な前かがみの姿が印象的であった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけ意思表示困難な方には、表情、言動から汲み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない、一人一人の体調に配慮し柔軟に対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活習慣に合わせた支援、行事、外出時はおしゃれを楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には配膳をお願いしたり、後片付けも手伝ってもらっている。一緒に食事をする様にしているが介助の必要な方が多く、介助しながら摂っている。	献立は季節感に配慮し、食材は地域商店より毎日購入するなど新鮮なものを心がけ調理されている。主婦の経験を生かした味付けや食材を切る音は入居者の食欲を増し、一緒に摂る食事は家庭団欒の一コマのようであった。完全なミキサー食では進まれない方には、咀嚼ができるようであれば粗刻みや小刻みによって提供したり、苦手な食材は盛りつけの段階で量の加減を行うなど工夫している。多くの食材を使用し、品数にも心配り「毎日がごちそう！ゆっくり食べていってくだいな！」入居者のおもてなしの言葉に食堂が更に和んでいった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量、水分量もチエツク把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は声かけ見守りをし、利用者によってはガーゼを使用し肺炎の防止につとめている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員リハビリパンツを布パンツに替えて取り組んでいる。定時、随時のトイレ誘導、声かけを行う事で失禁も少なく、トイレにて排尿する事が習慣づいている。少しでも家族の負担が少なくなればと配慮している。	チェック表を確認しながら定時誘導や訴えのある方へ適宜対応しており、日中の布下着や尿とりを組み合わせた支援は、本人の心地よさや家族の負担軽減にも繋がっている。夜間も定時誘導で昼間同様の排泄用品で支援している。布下着が不足した場合は、緊急的にリハビリパンツを使用することもあるが、布の良さを全職員が共有し取り組んでいると管理者は語っている。昼間リビングに置かれたベッドで臥床して過ごされる方に、職員が機敏にスクリーンを設置して行う排泄支援は、年月を経ても変わらず職員に受け継がれている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給には十分気をつけ、なるべく繊維質の多い食材を取り入れ、身体を動かすことを心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの気持ち、習慣に合わせた入浴支援ではないが、声かけを行い毎日入浴は行っている。	脱衣所や浴室内、浴槽も入居者・職員にとって使い勝手の良いものではないが、そのハード面にも職員のチームワークと笑顔で取り組んでいる。狭さ故、入居者の皮膚が当たらぬ様、ゆっくりとそして十分な声掛けに努めており、更に毎日の入浴支援が実践されている。シャワーをしながらの足浴、初風呂や入浴剤、柚子を使った変わり湯など、季節の入浴も取り入れながら、楽しい、そして家庭的な入浴に取り組んでいる。	重度化にある中でも職員は毎日の入浴支援に取り組んでいることに、家族も感謝されている。今後も変わらぬチームワークで職員の腰痛面にも配慮しながら、楽しい入浴支援に取り組んで頂きたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努力している。その時の状況に応じて休息など促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や処方箋のコピーをケースごとに整理し、職員が内容を把握できるようにしている。また服薬時はきちんと服用できているか確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人一人の力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化に伴い全員とはいかないが、心身の活性につながるよう本人の希望に応じて散歩に出かけたりしている。また、家族の協力にて外出などもして頂いている。	入居者の高齢化や重度化の現状から全員で外出することは困難な状況であるが、併設医院への受診時に花や樹木を眺め季節を感じる機会など個別や数人での外出支援に取り組んでいる。また、地元物産館を回り帰荘する散歩コースを楽しむ方もおられる。地域の方々には日頃からホームへの協力や理解が多く寄せられ、花植え活動や散歩時に声をかけられ会話が弾むこともしばしばのようである。また、帰省して昼食を楽しまれる方など外出への家族協力も得られている。	インフルエンザが流行した時期は健康管理が最優先であり、外出を控え希望に添えなかったようである。これからホーム周辺は桜並木など最高の場所でもあり、控えていた分の外出が状況に応じて以前同様支援されていくことに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方が主であり、家族の了解を得て職員が管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	主に電話の取り次ぎを行って、毎年年賀状や暑中見舞いを出す支援はしている。 （本人様写真入り）		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と台所はつながっており、生活感あふれ五感を刺激している。居間には畳にソファーを置き、快く過ごせるようにしている。また、花や飾りなどで季節感を出している。	入居者は昇降機や職員に見守られながら、1階の居室スペースから2階に移動し日中を過ごしている。台所に続く畳の居間には、臥床が中心の方が、居室ではなくベッドで音楽や入居者・職員の笑い声を聞いたり、台所の匂いをかぎながら共に過ごされている。窓の外に目をやると近隣や芦北の山の様子から季節の移ろいも感じることができる。大型テレビも安定感に配慮して設置され、ソファに座って数種のお菓子（黒棒や煎餅など）から好みを選び、朝のおやつを楽しまれるなど型にはまらない日常と、職員の笑顔が当ホームの何よりも居心地の良さに繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールには椅子を設置思い思い安全に過ごせるようにしている。2階廊下にも椅子を設置し、利用者様の居場所ともなっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのタンスがあり、居室が狭いため家族からの持ち込みはあまりない。	居室の戸には職員による手描きの似顔絵が掲げられ、居室を区切る障子の張替えにより明るさに繋げている。スペースの面から持ち込みの物品は少ないが、家族の来訪時にはタンス内の確認や衣替えの協力が得られている。日中は二階での生活が中心であり、起床後は毎日布団をたたみ、夜勤者によって直ぐ布団を広げ就寝できるよう掛け布団の角を折ってセッティングされている。既存の建物を改修したホームであり、決して広さや防音など設備が十分なものでなないが細やかな配慮に温もりが溢れている。	職員の似顔絵は入居者の特徴を見事に捉えた笑顔であり、家族も喜ばれていることと思われる。直近で入居された方の似顔絵も、是非近々描いて掲示されることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、昇降機の設置やひとりひとりのわかる力を見極め、必要な目印を付けたり、物の配置に配慮している。		